

これから生まれてくる赤ちゃんのために

妊娠かなと思ったら… お酒はやめましょう!!

妊娠・授乳時の飲酒の影響を知っておきましょう。

胎児性アルコール症候群と飲酒量の関係は明らかになっていませんが、「妊婦に安全な飲酒量はない!」です。

妊娠がわかったらその時点ですぐに禁酒しましょう。

●妊娠中の飲酒、お腹の赤ちゃんへの影響は?

妊娠中にお酒を飲むと、アルコールが胎盤を通過して赤ちゃんに運ばれ、早産や分娩異常を引き起こすことがあります。

また、赤ちゃんは「**胎児性アルコール症候群**」という障害がでる場合があります。



胎児性アルコール症候群について

胎児性アルコール症候群とは、母親の飲酒が原因で引き起こされる胎児の障害です。

具体的な障害としては…

- 顔面の異常
(鼻が低い、人中(鼻の下の溝)がない、斜視、頭が小さい、顎が小さい など)
- 体の発育障害
- 知能障害・学習障害・行動障害 など
- 心臓・腎臓・性器などの奇形 などがみられます。

●授乳中の飲酒、赤ちゃんへの影響は？

授乳中の飲酒は、母乳を通じて赤ちゃんへ運ばれる危険があります。

例えば、授乳中のお母さんがお酒を飲むと・・・

- 母乳の出が悪くなる。
- 赤ちゃんが寝ないでぐずるようになる。
- 乳児の発達、特に運動機能の発達が遅れるなどがみられます。

授乳中も飲酒は避けましょう。



問合せ 保健年金課 健康推進係 ☎92-5763 保健師までご相談ください。